



竹灯籠作り 挑戦



八幡市子ども会議

7月8日、「八幡市子ども会議」のメンバーがふるさと学習館で竹灯籠作りを行いました。

- ①和紙をのりで貼り合わせる中学生たち
- ②和紙に絵を描く小学生たち



同会議は毎年、市内の小中高生が4班に分かれてまちづくりについて考え、そのアイデアを市長に提言しています。竹灯籠は、昨年小学生班が市内の竹を有効活用しようと考えたものです。

メンバーは班ごとに分担して、作業を開始。小学生班は和紙に絵を描き、中学生班は和紙をのりで貼り合わせ、高校生班は竹でフレーム型の枠組みを作りました。小学生班は、考えてきた下絵や竹の写真などを見ながら、真剣なまなざしで絵を描いていました。

参加した南山小学校6年生の堤結奈さん(11)は、「竹灯籠を作るのは初めてでした。頑張ったので、みんなに見てもらいたいです」と話していました。

枠組みに和紙のかさをかぶせて完成した100個の竹灯籠は、8月4～6日に開催される淀川三川ふれあい交流事業／市制施行40周年記念「七夕まつり」(3面に関連記事あり)で使用されます。

外から見えない

道が狭い

校区のキケン 歩いて確認

7月6日、橋本小学校の6年生が校区の地域安全マップを作成するため、通学路などを歩いて危険な場所を確認しました。この取り組みは、どのような場所で犯罪や交通事故が起こりやすいかを、マップ作りを通して児童たちに学んでもらい、注意してもらおうと、八幡警察署が実施したものです。

6月の授業で、「入りやすく見えにくい」場所が危険であることを学んだ児童たち。この日は地域別に8グループに分かれ、署員や地域住民、防災安全課職員らと校区を調査。木で

囲まれて外から中が見えにくかったり、道が狭かったりする場所を見つけると、マップに目印のシールを貼り、気づいたことを熱心に書き込んでいました。

マップは、児童たちが集めた情報を同署でまとめて完成させ、10月に同校へ贈呈される予定です。

岩崎陽菜さん(12)は「暗かったり、周りに木があったりして見えにくい場所が危ないと思いました。一人じゃなくみんなで歩いたりして注意したいです」と話していました。



校区を歩いて危険な場所を確認する児童たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

勇壮に参道を練り歩く担ぎ手たち



大迫力 太鼓まつり

八幡の夏の風物詩、「太鼓まつり」が7月15、16日に行われ、一区、二区、三区、六区の屋形太鼓の担ぎ手たちが町内を練り歩きました。

同まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の例祭の宵祭として天明3年(1783年)ごろに始まり、文政年間(1818～1830年)に入り、町ごとに大きな屋形太鼓が造られ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く姿に発展しました。

まつり最大の見どころ「宮入」は、16日の日暮れごろから高良神社で行われ、子ども屋形太鼓3基と各区の屋形太鼓4基が集結しました。

「宮入」が始まると、担ぎ手たちは太鼓の音に合わせて、「ヨッサー、ヨッサー」と威勢の良い掛け声を上げながら参道を往復。屋形太鼓を激しく揺さぶりながら勇壮に練り歩く姿に、参道脇に詰めかけた見物客たちからは大きな歓声が上がっていました。

夏を満喫!

さつき市民プールオープン 7月31日～8月4日 無料開放

7月に入り最高気温30度以上の「真夏日」が続く中、7月21日、今年もさつき市民プールがオープンしました。初日にもかかわらず620人が来園し、プールでの水遊びを楽しみました。

この日の最高気温は34度を記録。強い日差しが照りつける夏らしい一日となりました。

水着に着替えた来園者たちは、はやる気持ちを抑えきれず次々とプールの中へ。ゴーグルをつけて泳いだり、友

だちとビーチボールで遊んだりするなど、プールでのひとときを思い切り満喫していました。

井上大輔くん(5)は「プールは気持ちいい、大好き」と、友だちと一緒に元気いっぱいプールを楽しんでいました。

さつき市民プールのオープン期間は8月31日まで。7月31日～8月4日には無料開放されます。



プールで遊ぶ来園者たち